

今・むかし新聞

第1号
平成25年3月

『みなと今・むかし新聞』を

リニューアルします。

港区立生涯学習センター（はるーん）では、平成十二年の夏から港区の今・昔を伝える「語り部」養成の学習会を、戦争を経験されている年配の方を中心に行っています。

語り部のメンバーが伝えたいと思っていること、歌や古い写真や生活に使った道具のこと、忘れられない体験などを、今・むかし新聞」として発行してきましたが、これからは語り部世代の方達と、地域・地元の若い世代の方達と連携を取りながら、「みなと・新橋 今・むかし新聞」としてリニューアルし、新しい紙面を作ることになりました。今後の発行は年一回を予定しています。

『みなと今・むかし新聞』

アーカイブス（書庫）

リニューアルに伴い、過去の「みなと今・むかし新聞」を紹介いたします。

★創刊号

「こぼれし境界の昔を振り返る」

「なつかしい歌 鉄道唱歌」

「一枚の写真から 芝浦の魚河岸」

「あの日のわたし 大空襲の口」 など

★第1号

「山形の民話『語り部』の話に聞かされて参加しました」

「一枚の写真から 神明様のお祭り」

「あの日のわたし 戦時中の結婚式」

「なつかしい歌 花いちもんめ」 など

★第2号

「私の町と乗り物の思い出 〓路面電車を中心に〓」

「路面電車の生き残り 都電荒川線」

「あの日のわたし 有楽町で受けた爆弾」

「なつかしい歌 電車唱歌」 など

★第3号

「こぼれし境界をさらにかきぬくお風呂屋・物売り・婚礼」

「区民あちろいから 三田 鶴坂 田回坂を歩く」

「なつかしい歌 電車唱歌 (NSI D)」

「新橋の昔を語る」 など



★第5号

「生涯学習センターのすぐ近く」 明治時代の建物がい

「区民あちろいから 三年坂あたり」

「語り部 小学校へ」

「なつかしい歌 数え歌」 など

★第6号

「国道 四六号線 面白発見」

「区民あちろいから 釣堀坂 (南麻布)」

「100年フェスティバル」 語り部の会場賑わい」

「なつかしい歌 梅干しの歌」 など

★第7号

「大山街道を歩く 〓青山二丁目から表参道まで」

「区民あちろいから 高輪高架道橋」

「語り部活動・学校訪問 御成門小学校 赤羽小学校」

「新橋の昔を語る」 など

★第8号

「古奥州街道沿いの歴史を探しました」

「区民あちろいから お台場 (港南)」

「100年フェスティバル」 語り部の会場盛り上がり」

「小学校訪問記 港区神心小学校」 など

★第9号

「時代を駆け抜けた 天璋院篤姫」

「区民あちろいから 銭湯に行こう」

「昔々今を語る『私の芝浦』」

「桜田小学校 塩原へ疎開した直後の献立記録」 など

★第10号

「港区は、伝説の宝庫」

「区民あちろいから 青山霊園」

「学校訪問 赤羽小学校 神心小学校」

「空襲で家を焼かれて」 など

★第11号

「母なる川 〓古川の源流を訪ねる」

「区民あちろいから 東新橋あたり」

「港区地域の今に至るまでの歴史 一遙か昔川口は海の底だった」

「昭和 〓二年三月 〓日 東京大空襲 〓義母よりの聞き取り」

「S」 など

★第12号

「汐留シオサイト」は、鉄道発祥の地です」

「区民あちろいから 東新橋あたり」

「語り部と子どもたちの交流報告 芝小学校」

「いつわつこがやまつつきた」発表会」

「一匙の塩」 など



★第12号

「江戸・名勝の地『愛宕山』を訪ねる」

「区民あちろいから 埋頭公園」

「六三制誕生前後」

「学校訪問 昔の遊び」 など

「語り部と新橋青年しんぶん」

座談会の模様

今日は語り部の方々と新橋青年しんぶん会（新橋を盛り上げ隊）のメンバーとで、新橋の今昔についてお互いが持っている情報を交換しようとして、生涯学習センター内桜田小学校記念室に集まりました。

会場にはそれぞれ約十名ずつの方々が集まり、皆さん初対面なので自己紹介から始めることになりました。語り部の会の方々が新橋との関わりや、昔体験した事を少しずつ交えた自己紹介が始まり、続いて三十五才代の新橋青年しんぶん会のメンバーの自己紹介に移りました。各人の新橋との関わりや出身校の話をしていくと、語り部の会の方から「あら〇〇店の息子だね」と初対面だと思っていたら今までにお会いしたことがある方が何人もいることが判明。そうなる今までの緊張感は一気にほぐれ、和やかな雰囲気になってきました。

各人の自己紹介が終わると、語り部の会の方にご用意した新橋の昔の地図を見ながら話が始まりました。昔は新橋の街にもお風呂屋さんが点在していました。語り部の会の方から「若い方々は新橋にも銭湯があったの、知っていますか？」の質問に対して、青年会からは地図を指しながら「あそこにあったのは知っているけれど、あそこは知らないな。」

なや口々に話していると、地名ももともとは随分違い、田村町や露月町等風情のある町名があったことにも気づき話が次々と広がっていきます。

この頃になると語り部の方々の記憶が一気に戻ってきたのか次から次へと昔の話が出ました。話題が出身校の話に移った時も、生涯学習センターの前身が、桜田小学校であったことから、なんと何世代もの卒業生がいて、しばし同窓会のよくな雰囲気で大いに盛り上りました。昔の話を聞いているうちに学校の成り立ちなどを知るようになっていきました。

「へえ、そだったんだ」と今まで疑問に思っていた事が解決したり新しい事実を知ったので、本当日情報交換ができた様に見える。最後の方では会場も年齢の差など感じさせない友達同士のクワイーズで雑談してゆるやかな話の空気が広がりました。

楽しい時間は過ぎるのが早く



ものであったという間に終了の時間となり、また、再会を期して書きこいた会は座談会のうちに終了しました。今後は一年に一度は集まり、話のテーマを決めて語り合ひ、語り継ぐという方向で進められました。終了後も誰一人すくなく帰ることはせず、その場でそれぞれの方々がまた話を続けていました。今回、語り部の方々と青年会のメンバーが話している時に見せた笑顔を見て、世代に語り継ぐ第一歩になったのではないかと自然に思えました。

「学校訪問」 港陽小学校

寒さひとおの、今年、一月十八日に、お台場にある港陽小学校の三年生、五十七名の生徒の皆さんが、芝小学校内の郷土資料室を社会の授業で訪れました。

その際、「語り部」のメンバーが、昔の道具の使い方や生活の様子について説明を行いました。

当日、集まった「語り部」メンバーは六名。火鉢や井戸、番



傘、キセルなど現代では使われなくなった道具の数々、生活の様子など子どもたちも興味津々。語り部メンバーもその使い方や当時の生活の様子を熱心に話していました。生徒さんたちもその説明に聞き入り、教材に記録していました。約一時間という短い時間で



したが、昔の道具・生活を通じて二つの世代がつながった貴重な時間となりました。

今回の様に「語り部」のメンバーは、昔の生活・遊びの事や、それぞれの戦争体験など、色々な話をしてくださいます。是非、積極的に話を聞いてみませんか？



発行・問合先
住所 〒100-0004 東京都港区新橋三十一番三
電話 〇三三四三二一六〇六
公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団
港区立生涯学習センター (はるーん)
協力・編集 新橋青年しんぶん会